

鳥獣害対策ロボット

北海道上川郡下川町における実証実験

2024.07.10 – 2024.11.17

目的

一般に、音や光などの刺激は、象徴的な脅威とはなり得ても、その後に実質的な脅威（痛みや死）を与えない限り、慣れてしまうのではないかと考えられています。

今回は、自身が「狙われている」という認識が野生動物側にどう影響を及ぼすのか、その効果を明らかにできることを期待しての実験です。

従いまして忌避手段は、相手に学習され効果の継続は難しいと言われるグリーンLEDライトとパラメトリックスピーカーによる銃撃音の採用です。

「正確な追尾が、慣れを防止する、という仮説」の証明が実証実験の目的です。



ひとつの結論

今回の事例は、どうしても入れたくない場所の防衛に対しては、重要な知見になると考えられます。

追い払いは、クマやシカの数が減るわけではないので、目指すべきはどうしても守りたい土地への侵入抑制であることを考慮すれば、「慣れ」を生じさせない威嚇装置の存在は貴重です。

また威嚇装置として、場所を選ぶことなく使用できる一般的な手法の採用であっても、一定の効果が得られることが分かった点も大きな意味を持つと考えます。



もう一つの結論

やはりコスト問題です。

守りたいものとのコストパフォーマンス・・・センサとしての性能を上げればカメラ部のコストが上昇・・・こればかりはどうしても無いというのが現実です。

稼働の様子については

https://plus.harenet.ne.jp/~seiden/jugai_robot.html

あるいは

http://www.seidensha-ltd.co.jp/~seiden/jugai_robot.html

こちらに日報よろしくご紹介をさせていただいております。

青電舎 獣害対策ロボット 🔍

鳥獣害対策ロボット（特許取得済み）に関するお問い合わせは

SEIDENSHA 有限会社青電舎

TEL 086-275-5000

〒703-8207岡山市中区祇園433-6

Mail seiden@po.harenet.ne.jp